

だい ぶ かだい
第5部 課題

この用紙は、大会当日使用しますので、必ずご持参ください。

だい かい
第15回

まいにち にゅうりよく
毎日パソコン入力コンクール

しゅう き たいかい
秋季大会

か だい
【課題】

だい ぶ わぶん しょうがくせいこうがくねん
第5部 和文A 小学生高学年

かんようく
ことわざ・慣用句②

せいげんじかん ぶん
制限時間5分

とうじつ ちゅういじこう
【コンクール当日の注意事項】

- この用紙を拡大・修飾などして、当日使用しても問題ありません。
- 団体責任者の指示にしたがい、18桁の参加番号を半角数字で入力してください。
- 課題の入力はすべて全角文字でおこなってください。スペースと改行も字数に数えます。ただし最終行はのぞきます。

※この課題は、小学館 例解学習ことわざ辞典 第二版より引用しました。
(文字数2, 1000字程度)

かだいぶんしょう きんそくもじ
〈課題文章の禁則文字について〉

毎日パソコン入力コンクールでは、引用した文章を原文のままソフトに取り込んでいるため、行頭、行末に禁則文字が来る場合があります。課題文章のPDFファイルどおりに入力すると正解になります。

しゅさい
主催

まいにちしんぶんしゃ
毎日新聞社

いっばんしゃだんほうじん にほん のうりよくけんていいいんかい
一般社団法人 日本パソコン能力検定委員会

こうえん
後援


そうむしょう
総務省


もんぶかがくしょう
文部科学省



こうせいろうどうしょう
厚生労働省

けいざいさんぎょうしょう
経済産業省ほか


ぎょう じづめ ぶんしょう にゅうりよく
1行32字詰で、つぎの文章を入力してください。



※  の箇所かしよ かいぎようで改行 (Enter) してください。

ふげんじっこう
不言実行 


あれこれりくつ理屈をい言わないで、やるべきことをだまじっこうって実行すること。 
あれこれりくつ理屈をこねるくせにじっこう実行しない人ひとが多い中なかで、彼かれは不言実行ふげんじっこうの人ひとだ。 





み から 出 た さ び 


自分じぶんのわるやったおこな悪い行いじぶんのために、自分じぶん自身じしんがくる苦しむこと。 
成績せいせきがわる悪いのはどりよく努力不足そくでみ身から出たさびだ。 





ひ の 打 ち 所 が 無 い 


欠点けってんやわる悪いところなが無い。 
非ひの打うち所ところがな無い演技えんぎでいち一位いとなる。 





き も そ ぞ ろ 


気きにかかおってつ落ち着おかないようす。 
もうすぐなつやす夏休みきで、気きもそぞろだ。 





しん しん き えい
新 進 気 鋭 


その社会しゃかいへ新あたしく現あられて、勢いきおいが盛さかんなようす。また、その人ひと。 
新進気鋭しんしんきえいのバイオリニストをき聴いきに行く。 





の 乗 り か か っ た 船 


ものごとをはじ始めていじょうしまった以上とちゅう、途い中でとちゅうやめることができないこと。 
乗りかかった船ふねだ、最さい後ごまできょうりよく協き力りよくしましょう。 





び じ 辞 れ い 句 


美うつくしくくかざりたてたことばや文句もんく。 
美辞びじれい句くを並ならべたててほめたたえる。 




い き が 長 い 

活かつどう動うしたり、売きれたりする期き間かんが長ながい。 
この商品しょうひんは売うり上あげが落おちず息いきが長ながい。 



い ち を 聞 いて 十 を 知 る 

頭あたまがよりくてかいすぐはやわかる。理り解かいが速はやい。 

かれ おきな とき いち き じゅう し てんさい
彼は幼い時から一を聞いて十を知る天才だった。 ◀▶

ひ き
悲喜こもごも ◀▶

かな こと
悲しい事とうれしい事が、かわるがわる起こること。また、入りまじ
ること。 ◀▶

ごうかくはっぴょう じばん まえ ひ き ひょうじょう み
合格発表のけい示板の前では悲喜こもごもの表情が見られた。 ◀▶

たいこばんをおす ◀▶

ぜったい
絶対にまちがいのないことを保証する。 ◀▶

かんぜん なお いしゃ
けがは完全に治りましたと医者からたいこばんをおされる。 ◀▶

ほらを吹く ◀▶

おお
大げさなことを言う。でたらめを言う。 ◀▶

じゅうにんぶん へいき ふ
ラーメンなら十人分ぐらい平気だとほらを吹く。 ◀▶

てんてこ舞い ◀▶

やす ま た はたら
休む間もなくいそがしく立ち働くこと。 ◀▶

きゃく じゅんび かいじょう ま
客をおかえる準備で、会場はてんてこ舞いのいそがしさだ。 ◀▶

みず なが
水に流す ◀▶

あらし
それまでの争いごとやうらみなどを、すべてなかったことにする。 ◀▶

みず なが なかなか
すべてを水に流して、仲直りをする。 ◀▶

かべ みみ しょうじ め
壁に耳あり障子に目あり ◀▶

ないしょばなし ちゅうい ひと
内緒話やかくしごとは、注意しないとすぐ人にもれてしまうものだ。 ◀▶

かべ みみ しょうじ め こと
壁に耳あり障子に目あり、うっかりした事はいえないぞ。 ◀▶

はし わた
橋を渡す ◀▶

りょうしゃ あいだ はい も はしわた
両者の間に入ってつながりを持たせる。橋渡しをする。 ◀▶

こうりゅうじ あい りょうこく かんけい はし わた
サッカーの交流試合が両国の関係に橋を渡すことになった。 ◀▶

はかが行く ◀▶

しごと すす
仕事もうまく進む。はかどる。 ◀▶

おも しごと い
思いのほか仕事のはかが行かない。 ◀▶

◀▶

風かぜかおる
若わか葉ばのかおりを運はこぶ風かぜがここちよく吹ふく。
風かぜかおる五月ごがつ、いかがお過すごしですか。

二に足そくのわらじをはく
一人ひとりで二ふたつの職しよくぎよう業もを持つこと。
医い者しゃとままんが家かの二に足そくのわらじをはく。

老おいては子こに從したがえ
年としを取とった親おやは、何なに事ごとも子こに任まかせ、子この言いう通とおりにしたほうが良い。
祖そ母ぼは老おいては子こに從したがえて母ははにすべて任まかせている。

残のこり物ものには福ふくがある
人ひとの取とり残のこした物ものや、最さい後ごに残のこった物ものには、思おもいがけないい物もの
がある。
残のこり物ものには福ふくがあるで、最さい後ごに残のこったくじを引ひいたら、一いっとう等あが当あたっ
た。

開あいた口くちがふさがらない
あきれて物ものが言いえないい。
あまりのずうずうしさに開あいた口くちがふさがらない。

青あお菜なに塩しお
急きゆうに元げん氣きがなくなりがっかりすること。
ひどくしかられて青あお菜なに塩しおとなる。

馬ま子ごにも衣い装しやう
どどんな人ひとでも、よよい服ふくを着きて、身みなりをかざれば、立り派ぱに見みえるもの
だ。
正せい装そうしたら「馬ま子ごにも衣い装しやうだ」とひやかされた。

うしろがみを引ひかれる
後あとの事ことが気きになっまて前まえに進すすみにこくい。心こころ残のこりがする。思おもい切きれないい。
うしろがみを引ひかれる思おもいで故こ郷きやうを後あとにする。

実みを結むすぶ

どりよく けっか え
努力して、よい結果が得られる。 ◀

どりよく みおす ごうかく
努力が実を結んで、合格できた。 ◀

ろん ご よ ろん ご し
論語読みの論語知らず ◀

しょもつ よ ちしき じっごう ちしき
書物を読んで知識はあるが、それを実行していないこと。知識はある
が実行がともなわないこと。 ◀

あたま じっごう ろん ご よ ろん ご し
頭でわかっている、それが実行できないとは、論語読みの論語知ら
ずだ。 ◀

き こころ
気は心 ◀

すく き も
少ないが気持ちがかめられていること。 ◀

き こころ すこ
気は心で、少しですがおめしあがりください。 ◀

みぎ で
右に出る ◀

ひと
その人よりも、すぐれている。 ◀

かれ みぎ で もの
テニスでは、彼の右に出る者はいない。 ◀

とし こう
かめのこうより年の功 ◀

ながねん けいけん なに きちょう ねんちやうしや ちえ
長年の経験は何にもまして貴重である。年長者の知恵をほめることは

。 ◀
かめのこうより年の功で、母は祖母にいろいろ教わっている。 ◀

いち に
一も二もなく ◀

なん はんたい いぎ
何の反対もなく。すぐに。異議なく。 ◀

いち に ひ う
たのみを一も二もなく引き受けてくれた。 ◀

うわ そら
上の空 ◀

こころ き も お っ
ほかのことに心をうばわれて、気持ちが落ち着かないようす。 ◀

あす えんそく たの せんせい じゆぎやう うわ そら き
明日の遠足が楽しみで、先生の授業も上の空で聞いていた。 ◀

でん こうせつ か
電光石火 ◀

ひじやう
非常にすばやいこと。 ◀

でん こうせつ か はや
電光石火の早わざ。 ◀

へいしんていとう
平身低頭 ◀

ふ あたま ひく さ
ひれ伏して頭を低く下げたおそれいること。ひたすらあやまること。 ◀

へいしんていとう
平身低頭して、おわびする。 ◀

じゅうおう お じん
縦横無尽 ◀

ものごとを自分の思い通りにするようす。思う存分。自由自在。 ◀
よばん だしゃ じゅうおう お じん かつやく
四番打者として縦横無尽の活躍をする。 ◀

ふ わらいどう
付和雷同 ◀

はっきりとした自分の考えを持たず、簡単にほかの人の意見につき従
うこと。 ◀
ふ わらいどう ぐんしゅう つぎつぎ くわ おお
付和雷同する群衆が続々と加わり、さわぎが大きくなる。 ◀

むね か
胸を貸す ◀

実力のすぐれている人が、実力のおとっている人の相手をしてやる。 ◀
じつりょく ひと じつりょく ひと あいて
こうはい れんしゅうあいて むね か
後輩の練習相手になって胸を貸す。 ◀

き み もり み
木を見て森を見ない ◀

細かい所に気をとられて全体をとらえない。目先のことしか考えない

。 ◀
き み もり み お
木を見て森を見ないからかんじんなことを見落とすんだ。 ◀

ぼう じゃく ぶ じん
傍若無人 ◀

勝手気ままにふるまうこと。 ◀
こども でんしゃ なか ぼう じゃく ぶ じん
子供が電車の中を傍若無人にかけめぐる。 ◀

にち じょう さ はん
日常茶飯 ◀

毎日のありふれたこと。 ◀
まいにち や ひる ま ねこいっ にち じょう さ はん
わが家では昼間は猫一ぴきが日常茶飯だ。